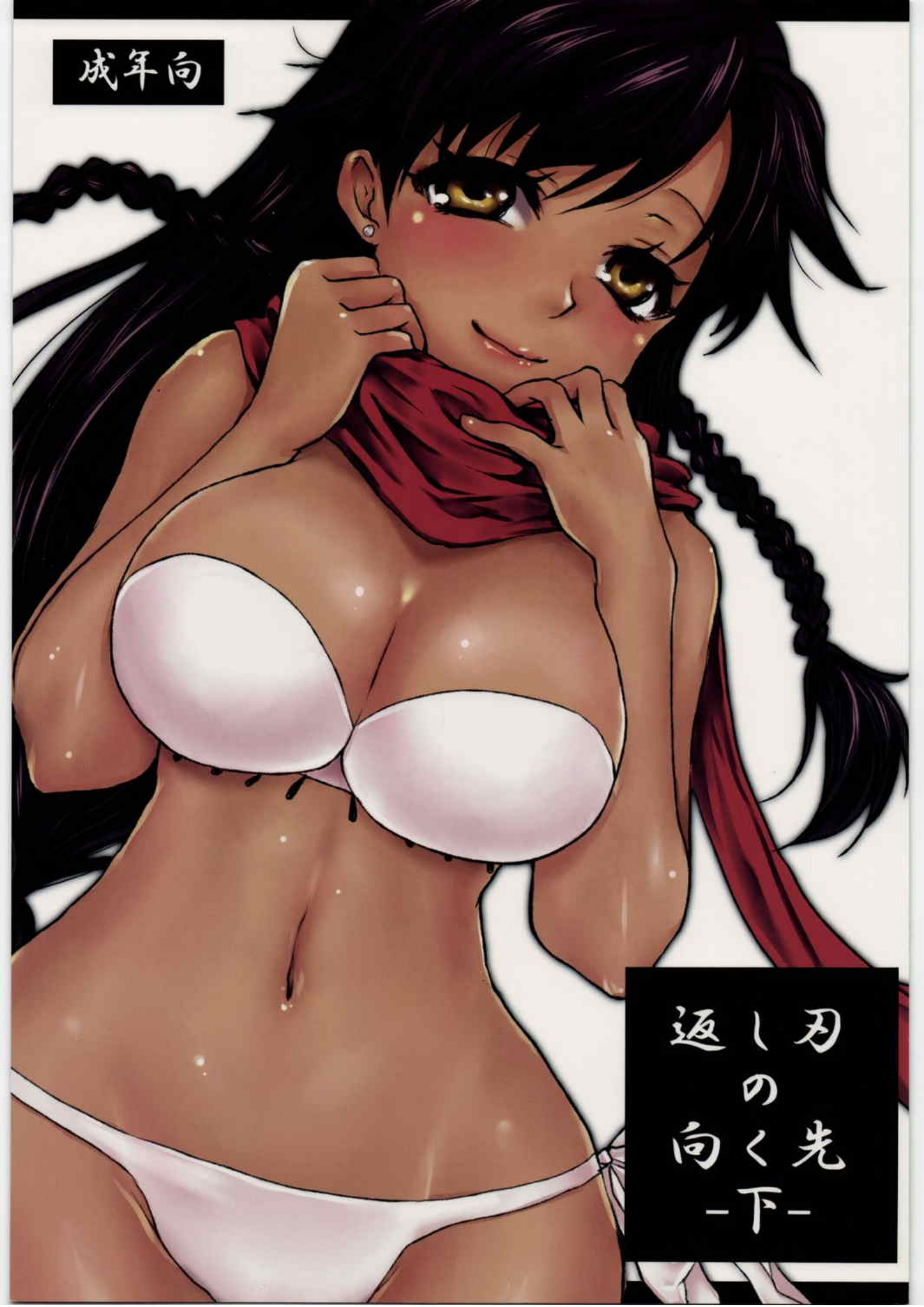


成年向

返し刃
の先
向く光
-下-





夜を迎えるたびに
彼女と傷を舐め合いながら



凶暴なモンスターを退け
時には突然変異種
なんていう色物を倒し



幾度も
海都と迷宮を行き来して

そして――



その時 僕たちのパーティは 全滅した

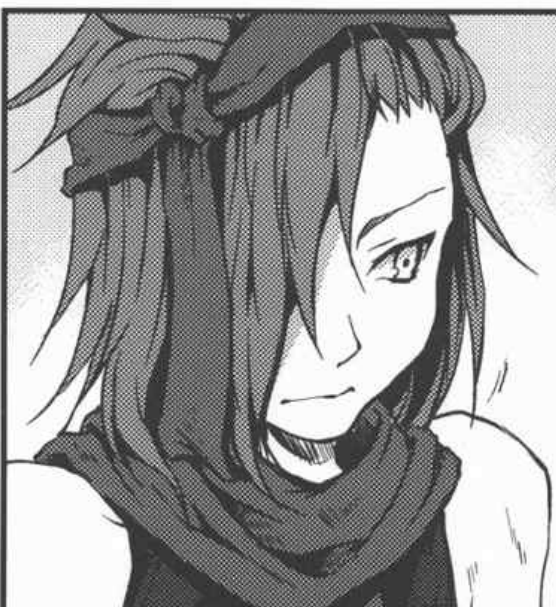
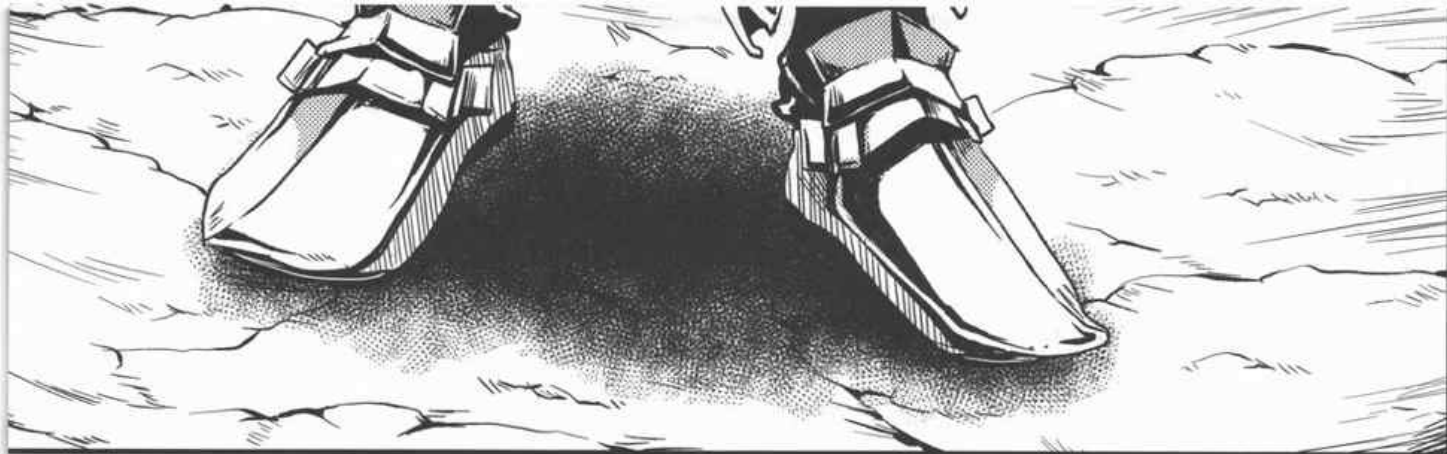
オランピアの仕掛けた罠により、少年のパーティは全滅した。そのあまりに理不尽な死に、彼はオランピアへの復讐を決意する。同じ境遇の冒険者たちを集め、憎き仇を追い迷宮を進む。その最中、彼と彼女は心を通わせる機会を得る。「ねえ、今までのことが全部ウソで……ただの私とあなただったら……良かったと思わない？」

彼女のそんな罪の無い問いに、彼は唯一言、

「……なれるさ。全てが終わったなら、きっと。」

そう、答えたのだった。







来たか
小さき者よ

ここまで来るには
覚悟もあろう



その覚悟は見事なり!



されど汝らの旅は
ここで終わる

最後の相手が
我であることを
喜べ!



…随分尊大だな！



思い上がった
鯨如きが！！





すみぬ……



…すまぬ
王よ

我は約定を
まもれなかつた…



小さな
いやき…

もはや止めぬ

大きな者よ

先へ進むがいい



そして知るがいい

秘するは秘するだけの
訣があることを...

その為には犠牲になった
多くの者達には
これから行く場所を、
じっくりと謝ることしよう...



少年よ

すまなかつた.....



そんな勝手が
許されるのかよ...!!



...やるだけやって

最後に謝って
済まそうだなんて...

グッ



ああ
もはや何も
聞こえぬ…

願わくば…



それを知った汝らが
正しき未来を選び

彼と汝の救いと
ならんことを…

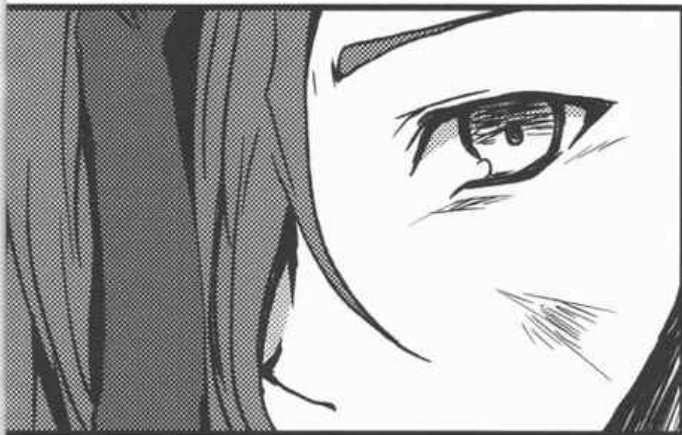




……ああ



大丈夫？



そうだな

行こう



この先に憎らしい
オランダの野郎が
居るんだろ？

なありーダー
早く行こうぜ





オランピア



……ようやく
会えたな



あなた達の良心に頼り
頼みたい事があると

グッ



いいかけ
よく聞け

深王は仰った

見るがいい

私は人ではないのだ

……まじか

本物の
化け物だったとはな

これが
深都の隠す
秘密のひとつ





あなた達には

この深都のこと

私のこと

この深都に関わる
全てを他言せず
にいて欲しい

それが
…人類の為でもある



少年よ

我が主の頼み
聞いてくれるか？



…深都も

化物の秘密も

そして王とやらの
頼みも

そんなことはもはや
どうでもいい
何の意味もなさない

…どういう意味だ？

今ここで
お前を殺し！

俺たちの旅は
終わるからだ！！



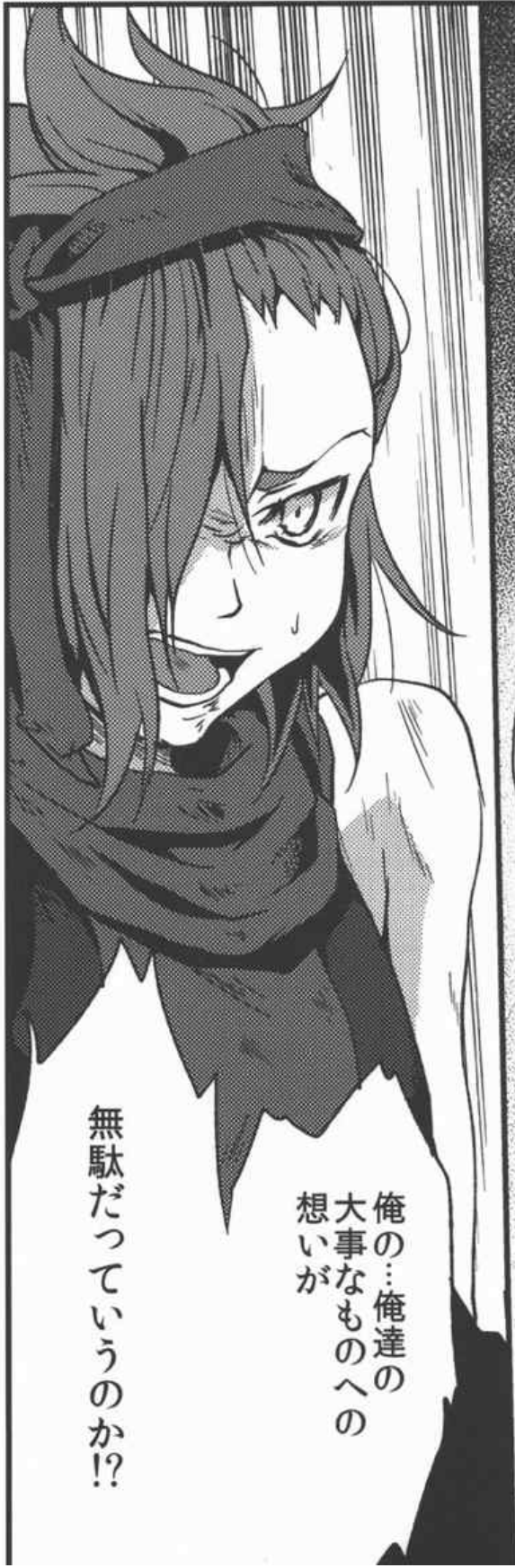




人間とは
本当に愚かなものだ



くそっ…!!



無駄だつていうのか!?

俺の…俺達の
大事なものへの
想いが



折角拾った命を
無駄に捨ててゆく

無駄だな

既に亡くしたものの為に
命を捨てたいのなら

いいだろう

私がここで
刈り取ってやる！

渦雷





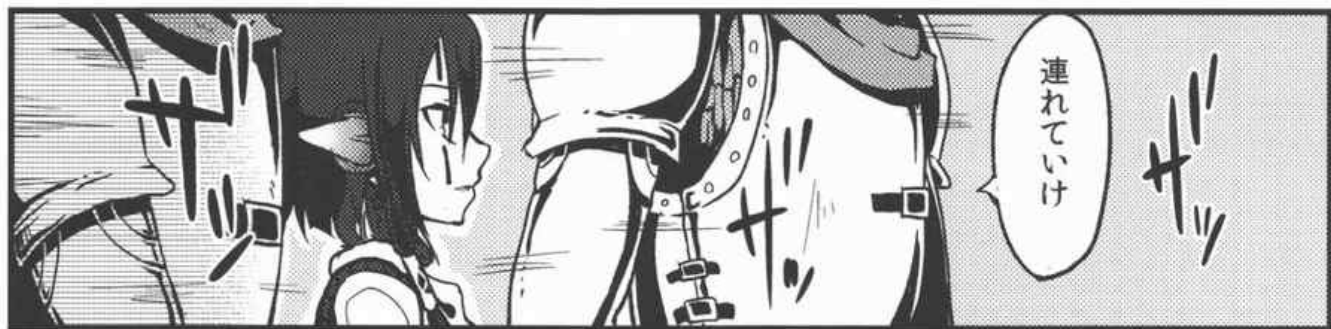
私の独断を持って
貴様らを

殺す



だが
次に深都に足を
踏み入れたその時は…

深王様からは
命を取るようには
命じられていない



連れていけ



ガ
チャ

ひょい





——それから
しばらくが経った

元老院からは報告を
せつつかれていたが

傷がひどく
記憶が曖昧だ

と濁していた

その傷もほぼ癒えたが
未だに次の手を打てずにいた



はげしいっ
よお!

たぶん

たぶん

たぶん...

たぶん

たぶん

たぶん

はげしいっ

はげしいっ

はげしいっ

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

たぶん

あつ
勘違いしないでね



別に嫌になつたつて
いうわけじゃないの



今まで通り私は
パーティーの射手で
居るつもりだよ



でも
その気持ちの持ち方が



ちよつとだけ
変わってきた



そんな気がするの



もちろん
私の大好きだった人達を
奪ったあいつは許せないよ





心の奥底から



だが聞こえる



そんな安寧に
身を委ねられる身分だと
思っているのか



どうしたの
大丈夫？

ああ
大丈夫だ






ちよつと
夜風に当たってくるよ




俺は
なんて汚い奴なんだ…






俺の都合で復讐という
血塗れの道へ
連れ込んでおきながら



あんなに幸せそうに
笑える彼女を



なんて…
なんて醜いんだ!

自分
は他人の
幸せの
可能性を
奪って
おいて!



俺自身も
安寧が
幸せが
得られると

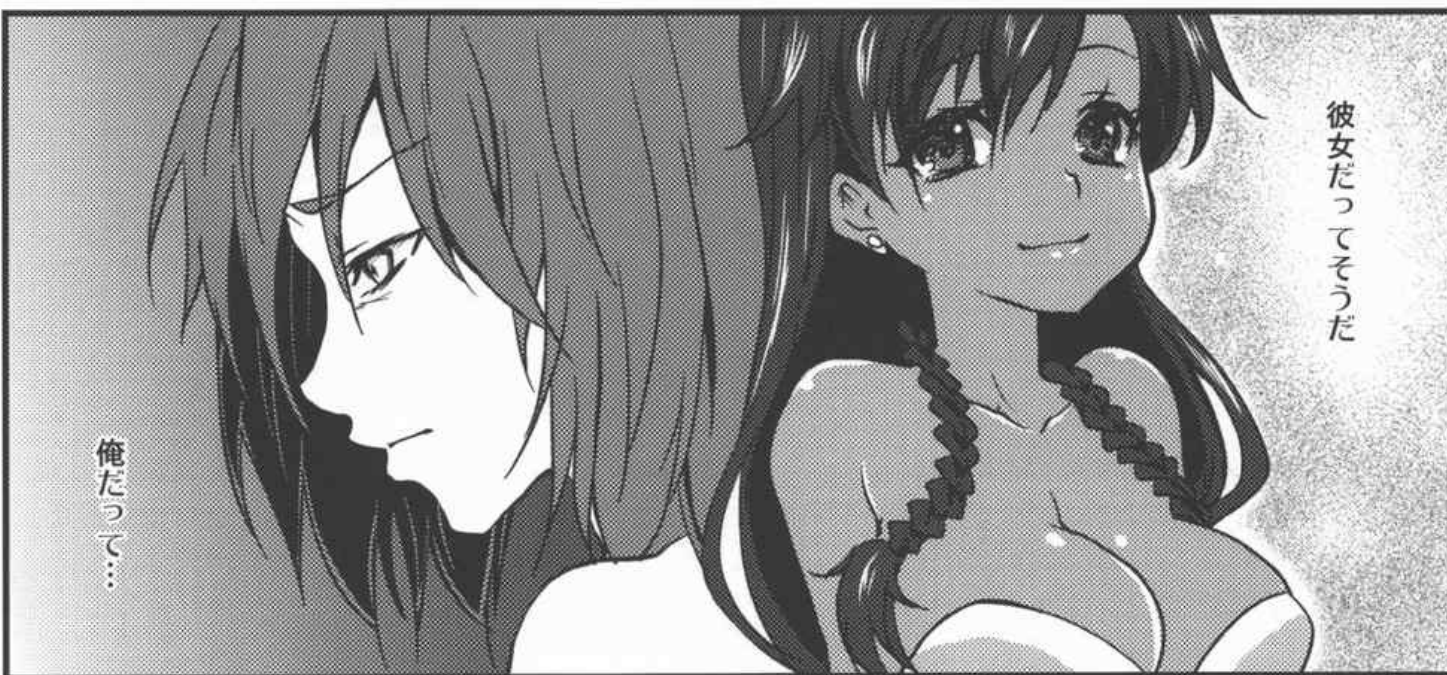
一瞬でも
考えてしまった



皆だってそうだ

そりーだって

：ああ
本当は分かってるんだ
復讐なんて誰も
望んでないことを



彼女だってそうだ

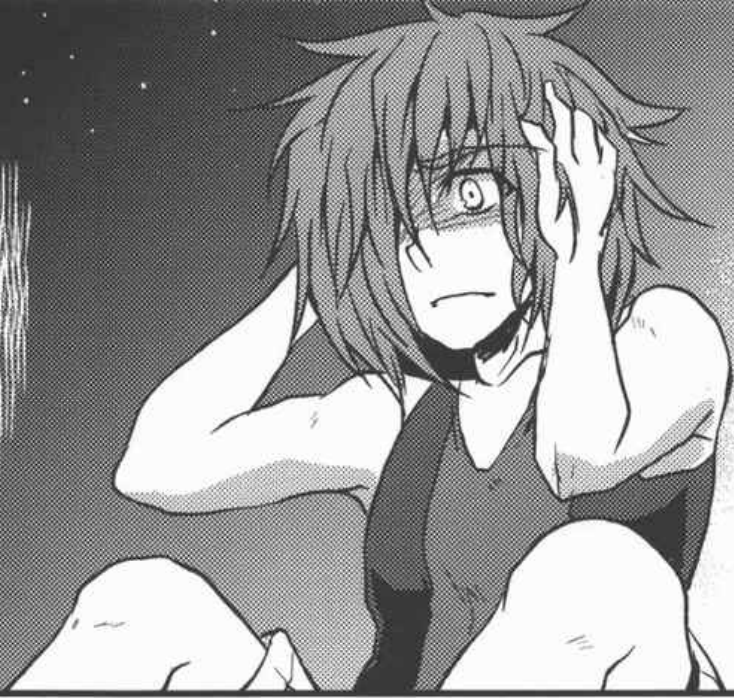
俺だって…



だが俺は
もう引き返せない所まで
彼らを巻き込んでしまったんだ



立ち止まることなんて
とっくの昔に
許されちゃいないんだ



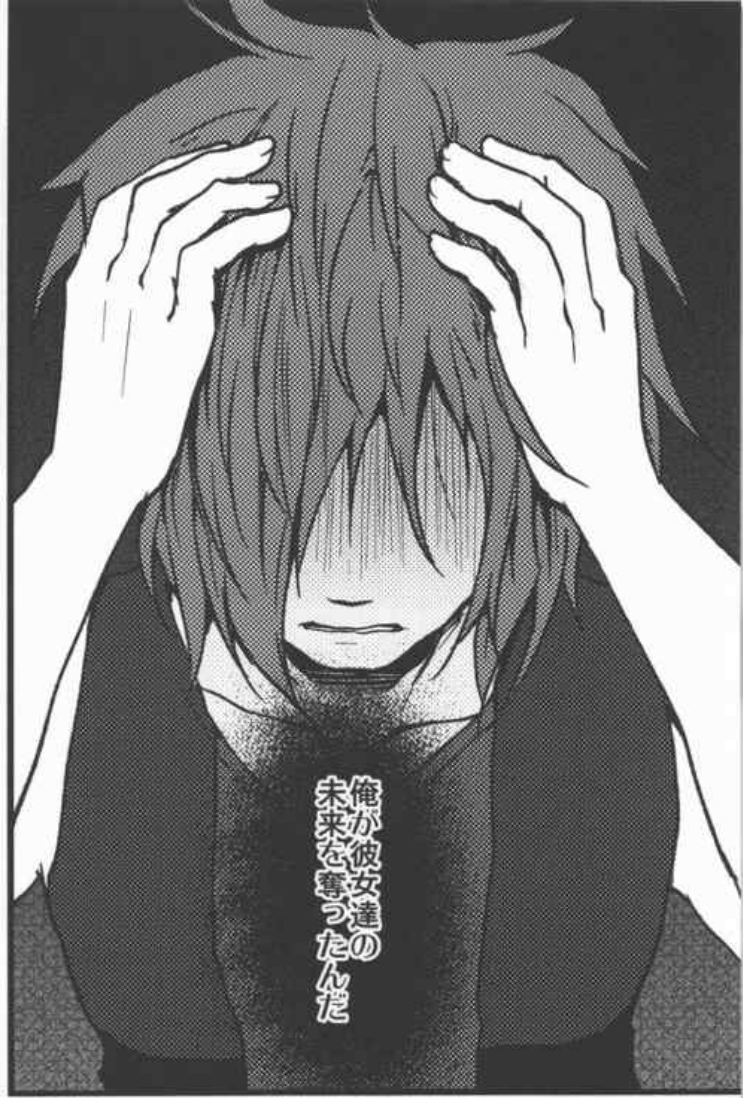
リーダー



…本当は
そんな未来が
あつたのかも知れない

だが気づいてしまった

いや
考えないよう
に
していたんだ



—俺一人で、終わらせる



彼女達の憎悪の糸を
切ることが出来れば
それでいい

それが彼女たちを
暗闇へ引き込んでしまった
俺の唯一出来る贖罪のはずだ

彼女らの足あとが
血に塗れていたとしても

やがて薄れて

小さな幸せを
抱きとめることも
出来るかも知れない

それでも俺は…

…冷静などとは
到底言えないだろう

どこかでおすかに
客観視していたように思う



ここに来れば
すぐお前に会えると



なんとなく
分かってたよ



警告したはずだ
全てを忘れると

そして
次はない...と

次を無くすために

だからこそ来た





それを待っていた!



対雷ミスト!

これで貴様の雷は
威力を発揮できない!

くっ…
まさかこんな物まで
開発していたとは…!

あまり人間を
舐めるなよ

機械人形!!





「名答！」



「貴様それで
その軽装か！」

「対刺突用結界っ!？」





武器を捨て
捨て身の特攻とは

やはり気が
狂れたか…

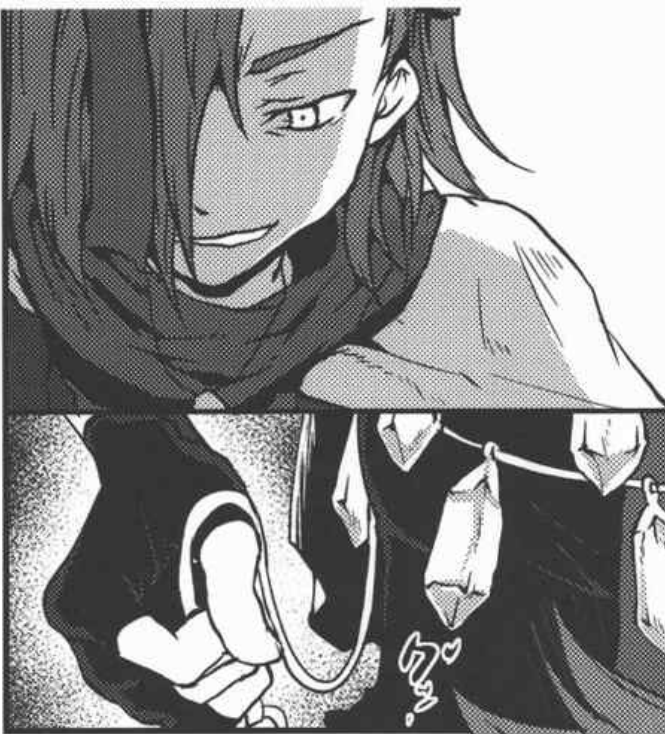


へへっ
それはこいつを
見てから言うんだな…



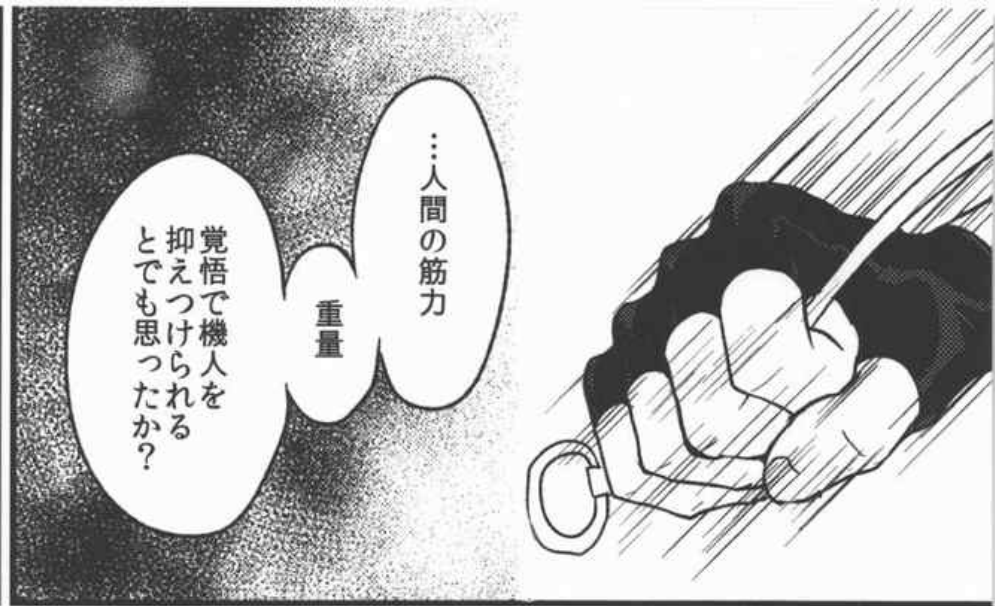
ご存知のとおり
火術の起動符だ

これだけの火力があれば
さすがのお前も
タダでは済むまい！



さあ滅びろ
オランピア！

全ての復讐も
これで終わる！！



…人間の筋力

重量

覚悟で機人を
抑えつけられる
とでも思ったか？



そして

種が割れた道化の
末路は知れている

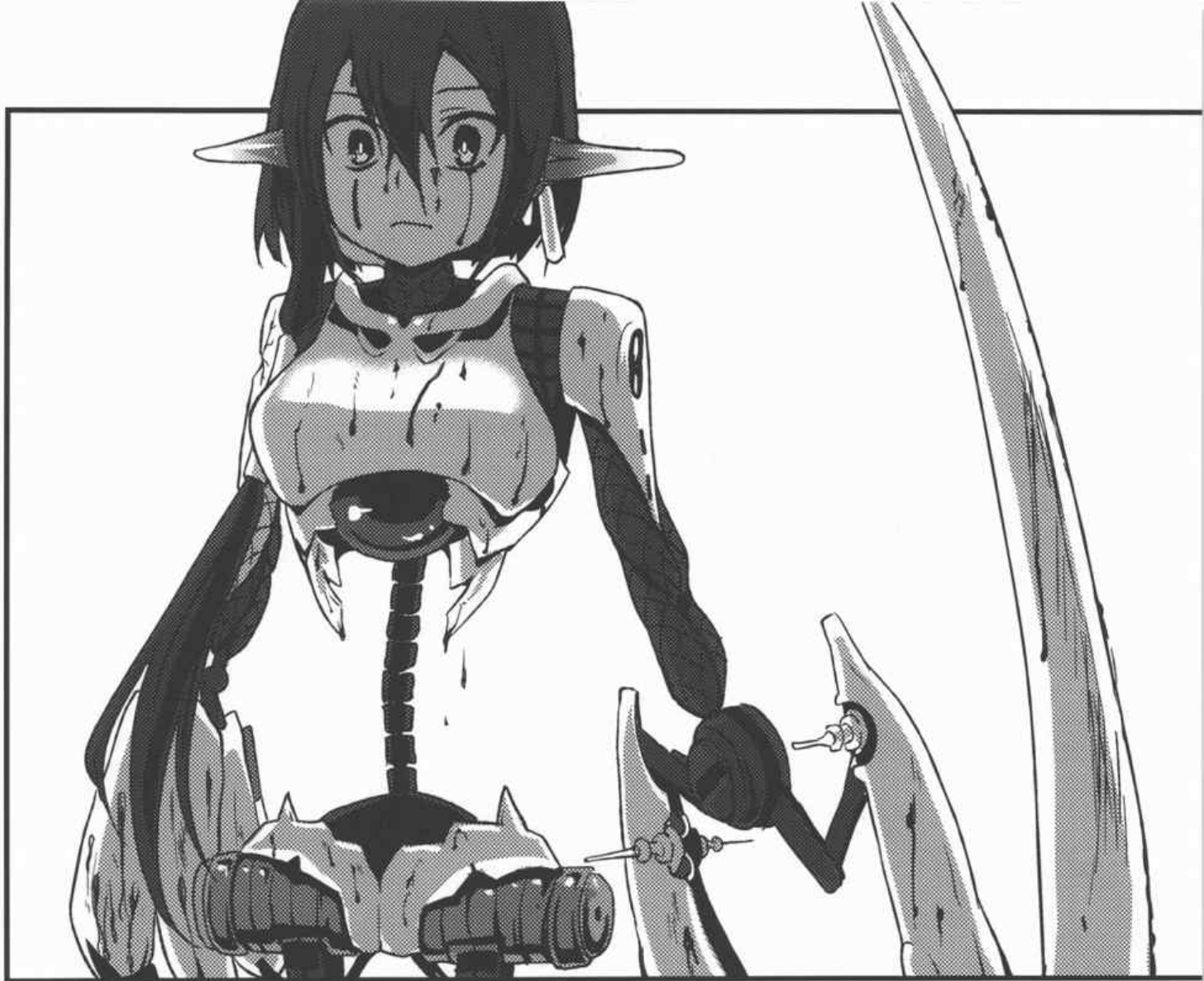


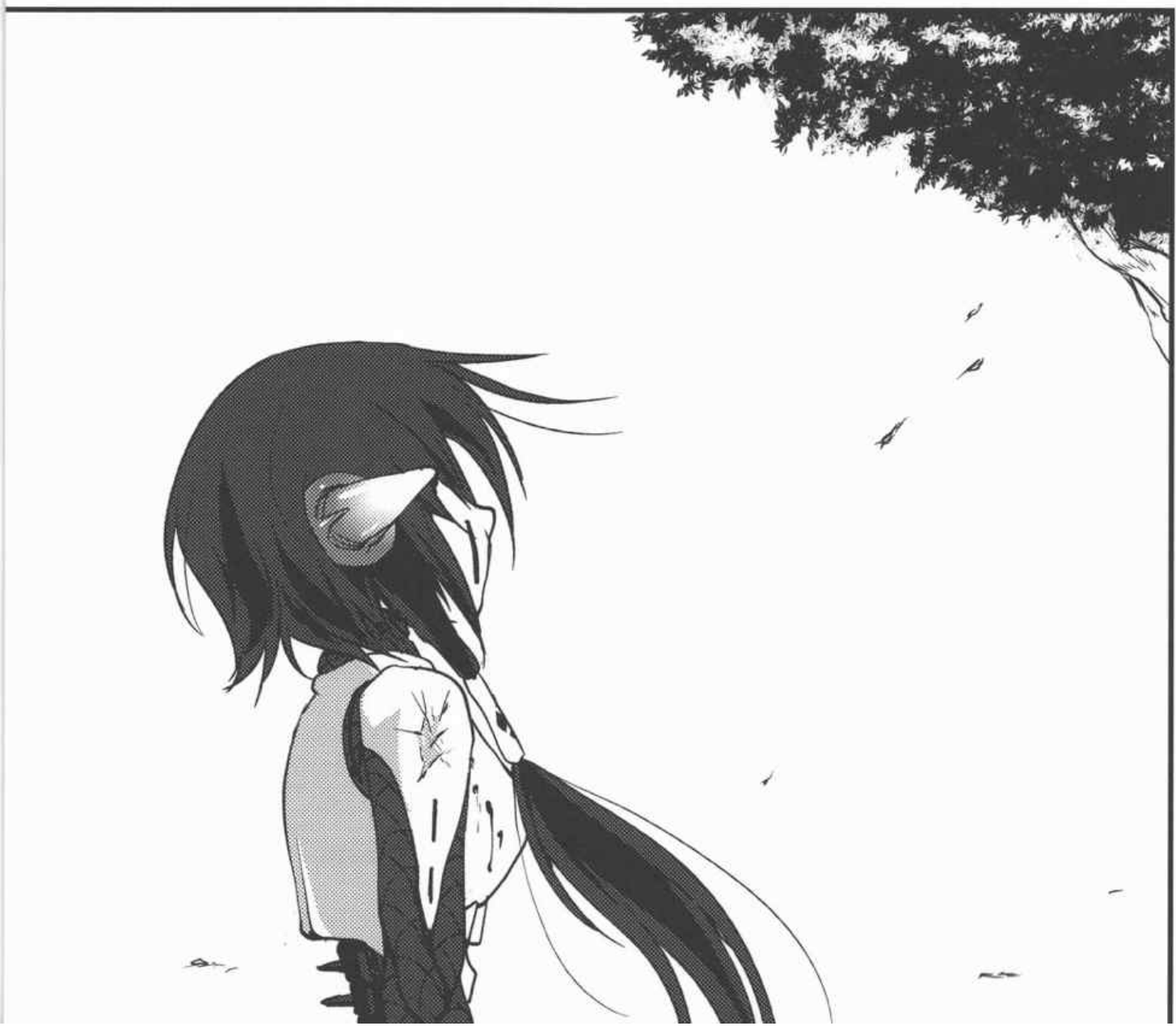
全力で相手すると

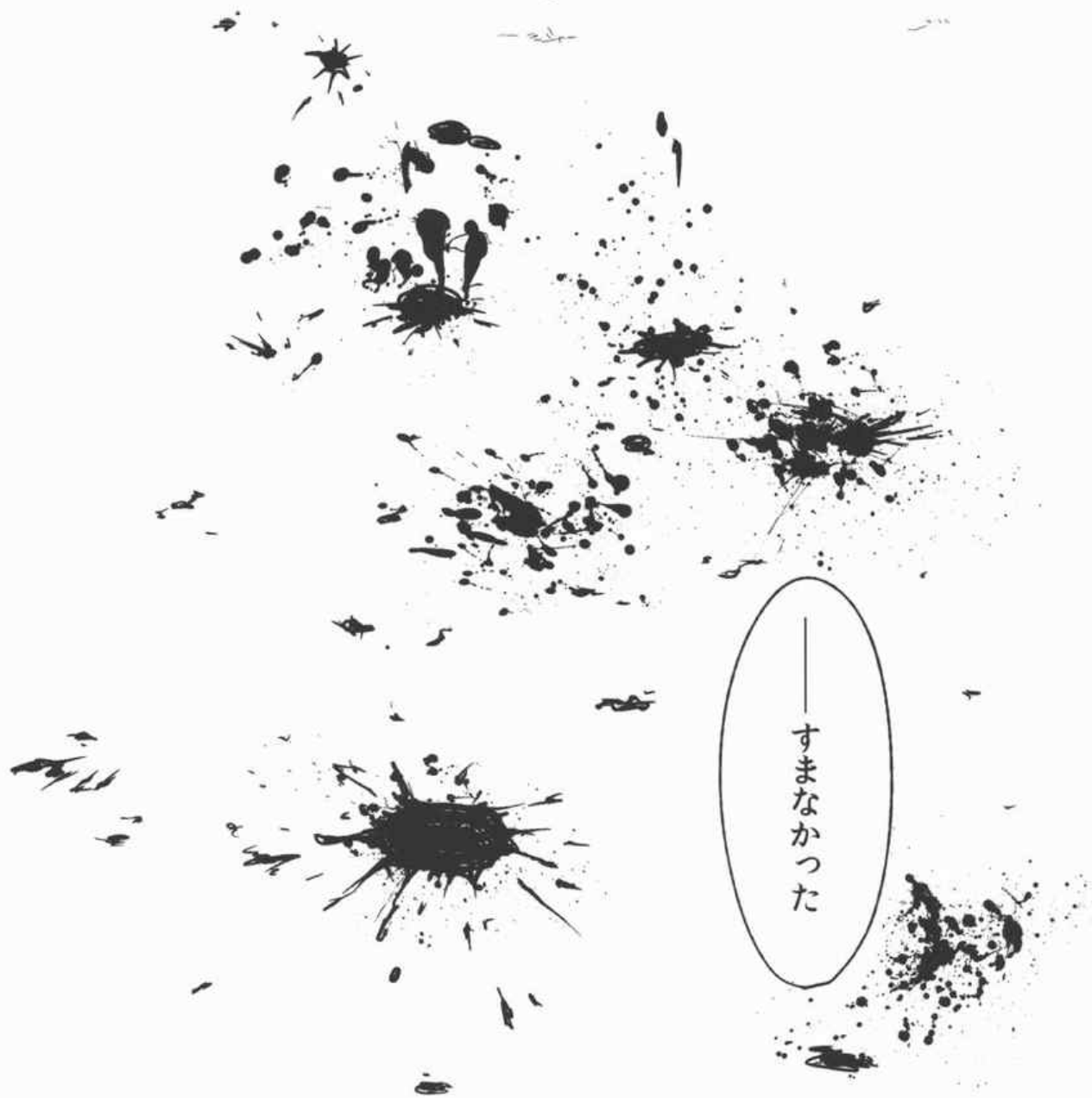
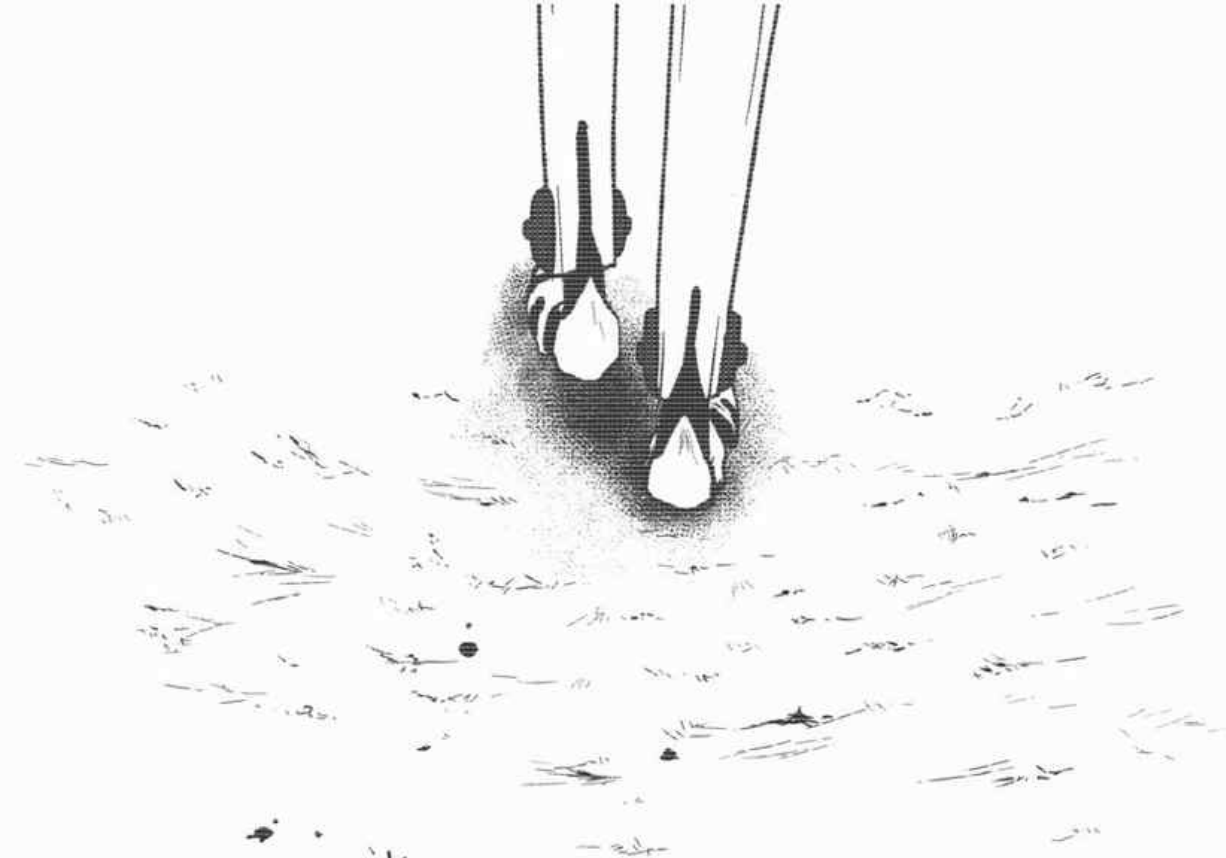


言ったはずだ









—
すまなかつた

一
終。

返し刃の向く先、如何でしたでしょうか。
いつも難産ですが、今回は特に難産でした。
負荷と刺激を求めて厳しい仕事に身を投じたのもあり、
結局書き上がるまでに半年
(といっても実際の執筆時間は10分の1程度でしょうか)
という長い時間がかかりました。
何度か軌道修正もあったり、長くあいだが開いたり、
ぼにはは迷惑をかけっぱなしでしたが、
会心の絵で答えてもらえたと思っています。

少年や少女のこの先の物語は、わかりません。
願わくば、あなたの心にその続きがありますように。
お読みいただきありがとうございました。

風術師





返し刃の向く先 — 下 —

発行 風のごとく！
著者 風吹ぼに 風術師
発行日 2011.08.14
印刷 サングループ

WEB <http://lkwin.x.fc2.com/>
MAIL buchi_koneko@yahoo.co.jp

18歳未満の購読禁止
無断複写、転載はご遠慮願います

風のたぐく!

